

ご利用者の感想 / Sさんのヨーロッパ紀行 2007



ザルツブルグ (Dialyse-
Ambulatorium GmbH)



ローマ (ARS MEDICA)

<ご利用者の感想 目次>

2007年7月 Sさんのヨーロッパ紀行 (Sさんは英語力がNative程度です。)

(手配代行会社 [JCSC社](#) 使用。在ウィーン。代表者 Ms.Eliska Hronik)

1. ウィーン (Dr. Kock の Feriendialysezentrum)

臨時透析のみ受け付けておられるとかで、当日は私を含め二人 (2床) だけ。Dr.Keck と 看護師さんと二人で対応。お二人とも英語堪能で、なんの支障も心配もなし。

透析は 16:00 から 4 時間。また、Eliska さんの送り迎えつきで 最初と最後以外も 途中でのぞきにきてくれたもよう。(私は眠っていて気づかず。) 途中サンドイッチと飲み物 (お水か炭酸水のほかにも CHOICE あり) が出る。サンドイッチは ハムかソーセージか チーズの中から選び フランスパンの上にそれを乗せた簡単なもの。(看護師さんが作られたように思う。) 費用は 380 ユーロ。テレビ、ラジオなし。いすタイプ。

2. [ザルツブルグ \(Dialyse-Ambulatorium GmbH\)](#)

現地のかたも通う施設で ベッド数だいたい 30 ぐらい。こちらの看護師さんは 流暢な英語を話され雑談も可能。透析時間は 17:00 から 4 時間。Eliska さんは出張になるので お願いせず。往復のタクシー問題なし。こちらでは 食事をしていったが 途中ご飯を食べているかたは身受けず 出ないのだろうと思われる。費用は 282.15 ユーロ。この施設は HIV の検査にうるさく 6ヶ月前のでは だめで ウィーン

で急遽検査をして データを送ることになった。 テレビ・ラジオなし。 いすタイプ

3. フランクフルト (KfH Nierenzentrum) (透析2回)

現地のかたも通う施設で 1部屋に4ベッドで 一人の看護師さんがつくという具合。19:00の予約に30分前に行ったら 1時間待ちと言われ 様子を見ていたら PRIMING(回路の準備)を一人ずつやっていたので、一人15分 私は4人目だったのでそれくらい待つ。(日本では PRIMINGは あらかじめ やってある。) 看護師さんは 最初に対応してくれた人は 英語堪能 しかし 一日目の最初の30分のみで帰ってしまい 2回目は休暇中で会えず。医師は英語OK。 今回唯一血液検査の結果を示される。とくにカリウムが大事(当然だが)ということで 両日とも カリウムに気をつけるように言われる。

(私は日本でもいつも高いので驚きはなかった。)

この施設は夜中の1:00AMまで透析をやっていて 看護師さんは2:00AMまでの勤務。 食事は給食のかたが 運んでくる。 私はあらかじめ軽く食べて行ったので PANCAKEとAPPLE SOUCE (ホットケーキとりんごの炊いたもので暖かい)を注文。

(これは透析の前に聞かれる。) 飲み物は 色々あったが 給食のかたは 全く英語がわからず 出てきたものをもらう。透析の間中電気をつけず みんなテレビ(天井にあり ふたりで共有・耳元にコントローラがありそこから 小さい音量で聞ける)カラジオ。往復のタクシー問題なし。ベッドタイプ。費用は232.60ユーロ。

4. ローマ (ARS MEDICA)

現地のかたも通う施設で 見た感じ20床ぐらい? 最初英語が多少わかる看護師が対応してくれたが 全く英語がわからない別のかたを紹介され そのひとに連れられ会計へ。会計のかたも英語が全くわからず。なんとか治療費用を聞いて支払いをする。しかし私

のもらっていた予定表では 16:30 — 19:30
とあったので 4 時間に変更してもらおうと 交渉するが 筆談をしても通じず（透析そのものを理解していないため？）結局多少英語のわかる医師に頼み 4 時間にしてもらえることに。

食事とか飲み物のことを聞こうとしたが 全く通じず。結局何も出ず。最初にベッドといすとどっちがいいか聞かれ ベッドと答える。ベッドが体重計になっていて 荷物を載せてから「0」に合わせる。そのあと 飲み物がでるかどうかわからず 荷物の中の水を飲んだので そのことを伝えようとしたが 伝わらず そのまま表示された体重からドライを引いて計算。自分としてはもっと増えていたように思ったが通じないので もう次の日は帰国し透析を日本で受けるので あきらめる。治療を始めて 30 分で 唯一英語の多少わかる看護師さんが 「チャオ!!」と言って帰ってしまう。みんなラテン系民族で 大変機嫌がいいが いい加減である。1 時間ほどすると 血圧を測りに来て 上が「70」と出る。私は時々70 になることあり すぐ回復するし 今日の増え幅では 血圧は心配ないのに 医師が来て 「SODIUM」（食塩水）と言って注射をしようとするので 要らないと言いたかったが 通じそうにないので やめる。最後終わりの体重も結局正確だったのかどうか不明。しかし透析は 4 時間できたし 体重は引きすぎさえしなければ 大丈夫と思い 退散。テレビは天井に一人一台ずつあるが ことばがわからないので 見ず。費用は 173.81 ユーロ。帰りのタクシーは 呼んでくれて ちゃんとくるまで医者が付き合ってくれたが 行きと帰りのタクシー代が倍違ったので ぼられたかもしれないが （イタリアではよくあることらしい）結局わからず。

全部に共通することとして

1) 支払はすべて現金でないといけない。

2) EPO は基本的に自分で持参する。

定期的に飲んでいるお薬はもちろんもっていくが
EPO は（アメリカでは お金さえ払えばやってくれるが）
ドイツではだめ。オーストリアは OK
イタリアでは ことば通じず聞けなかった。ドイツ
では今回は無理にお願いして聞いてもらったが この
点非常に苦労した。

2007 年 7 月

[<ご利用者の感想 目次>](#)

•